

暁 鐘

☆1学年通信☆

小樽潮陵高校
1学年通信号
第17号
2014.8.20(水)

☆進研模試を振り返る☆

本日、第一回進研模試の個人成績表が返却された。全国平均から見た自分の位置や全国順位、各教科で分野ごとの分析が掲載されている。結果を見て一喜一憂する人も多いだろうが切り替え、振り返り、分析して、復習することが大切だ。

以下の質問に答え、今後の行動に生かしていこう。

- Q 1 振り返りシートの点数と実際の点数を比べてどのくらいの差異があったか（正確な自己採点力は受験本番でも大切な力である）
- Q 2 自分の強みと弱みを理解しているか。（物事には順序と優先順位がある。何から復習を始めたらいいか自己分析を深めて学習すること）
- Q 3 模試の模範解答冊子を見て、各教科の復習は終わっているか。（同じ「タイプの」問題といつか出会ったときに正解することができるか。そういう状態になるように繰り返して頭に入れておくこと）

さて各教科ごとに分析と今後の方策を見ていく。

数 学

各設問の結果分析は以下の通りです。

・第1問〔小問〕

ここは25点中最低でも20点は確保したいところです。本校の平均点も19.6点ですので最低ラインはクリアといって良いでしょう。いずれも基礎的な内容の問題でしたが、点数を取れなかった問題については、単純ミスなのか、理解不足なのか、その原因分析をしましょう。特に、「理解不足」については、まず教科書の例題で内容理解に努めてください。

・第2問〔2次方程式・式の計算〕

（1）（2）は第1問の小問レベルの基礎的な問題ですので、しっかり解けるようにして欲しい問題です。特に（1）で計算ミスをする、以下ほとんど点数になりませんので、こういう問題こそ丁寧に取り組みましょう。一方（3）は交代式の問題でした。基本的な発想は対称式と同じですが、式変形に慣れていないと（つまり、まともに p や q に値を代入して計算してしまうと）大変だったかもしれません。夏期講習前期に類題がありましたので、本問と併せて復習してください。

・第3問〔不等式（文章題）〕

今回4問では一番難しい問題でした。まず、問題文が長く、内容理解に手間取った者も少なくなかったのではないのでしょうか。それを意図した問題でもあったのですが、そこをクリアできれば（1）は解けたのではないのでしょうか？（2）（3）は場合分けを伴いますので結構難しいですが、ぜひ解き直しをして理解に努めてください。

・第4問〔2次関数〕

この問題が得点を伸ばすことができたか分かれ目の問題ではないか思います。2次関数の最大・最小問題です。（1）（2）は第2問同様、小問レベルの基礎的な問題です。（2）については、定義域に制限がなく、しかも a が正の定数よりグラフは下に凸の放物線ですので、係数に文字が含まれていても頂点の y 座標が最小値です。場合分け不要ですので、ここまではしっかり加点したいところでした。

（3）は一見難しそうに感じますが、 $g(x)$ の最大値は場合分け不要でしたので、ここまでは取りたい問題でした。一方、 $f(x)$ の最小値は軸が定義域の内か外かで場合分けが必要な問題です。定義域が固定で軸が動くタイプは慣れてきていますが、本問のように軸が固定で定義域が変化するタイプは不慣れと思われます。考え方は同じですので、例えば4STEP例題18などで復習し、苦手意識を払拭してください。

全体的には全国偏差値を見る限り、順調な滑り出しと言えます。その要因として

（1）全国偏差値60以上の者が多い（72名）

（2）全国偏差値50未満の者が少ない（47名）

の2点が挙げられます。このことはみなさんの高校入試結果や入学直後のスタディサポートと関連しており、能力の高い集団を形成できる素地があることを示しています。

しかし、「進研模試の成績が良い＝能力の高い集団」とは言えません。つまり、進研模試に限りませんが、1回の試験はその瞬間の結果であり、さらには、進研模試に向けた準備をする時間やそのための教材も十分与えられていましたので、出題範囲が狭いことを含めて冷静に考えると、しっかり取り組んだ者はそれなりに加点できたということではないのでしょうか。つまるところ、大切なのは「今後の取り組み」です。みなさんはこれからも「定期テスト」「実力テスト」「模擬試験」などの関門を通過しますが、その1回1回を大切にクリアすることを積み重ねることが、「真の実力」につながります。

昨日「実力テスト」が終了したばかりですが、次は約3週間後に控えた「2学期中間考査」です。その間には平常講習も開始されます。言い古された言葉ですが「継続は力なり」。

今回思い通りの成績でなかった者も“闘い”は始まったばかりですので、焦ることなく

授業を軸に教科書や4STEPで基礎力を固める



講習等で「実践に近い演習」＋「解説」で理解を深める



テストで力試し



結果を分析し、苦手分野を克服

という学習サイクルを身に付け、地道に努力を重ねてください。学習サイクルが確立できれば、次回の進研模試（11月）で成績の伸長が期待できますし、逆に今回成績が良くても学習習慣が確立していない者は今後成績が降下する可能性が非常に高いと考えます。分野ごとの成績を分析でも指摘した通り、まだ伸び白の大きい集団ですので、これから期待しています。頑張りましょう！

国語

今回の進研模試の結果について1年国語科で分析してみました。まず、本校の過年度との比較をすると過去4年間の進研模試の平均点偏差値は「53.4」になります。それに対して今年の平均点偏差値は「53.2」なので、結果としてほぼ横ばいとなっています。

ただし、今年は例年と違って、諸事情から選択問題を漢文から古文に変更しています。実は今年の選択問題の全国平均点は漢文が20点満点中約9点強となっているのに対し、古文は7点弱でした。例年の本校の漢文の平均点偏差値は全国平均を上回っているの、ここに2点以上の差が生じています。2点の差は今回の模試の偏差値でいうと、1.5ポイント程度の差になります。ちなみに今回同じ古文を選択した札幌北高校や札幌西高校もこのことの影響からか例年よりも明らかに低い平均偏差値状況になっています。

次に他校比較をしたときに、今回本校を上回る偏差値である高校の北広島高校（55.1）、釧路湖陵高校（54.7）、大麻高校（53.5）などは漢文選択をしています。これらの漢文選択校との比較では、必修分野部分（現代文分野と必修古文の80点）に関して北広島高校と全く同じ合計点数であり、他の2校は本校より下の点数となっています。このことから考えると、仮に本校が例年通りの授業展開で、漢文選択をした場合は偏差値に1.5ポイント以上の上昇があったかもしれません。漢文選択に関しては、あくまで仮定の話ですが、少なくとも必修問題に関しては、例年以上の成績だったのではないかと思います。

ただし、古典の選択問題に関しては問題点がはっきり浮きぼりになっています。確かに選択古文の問題は全国平均点も低いのですが、本校平均も偏差値5.0と他の分野と比べて明らかに低くなっています。同じ古文を選択している札幌月寒高校（54.7）、函館中部高校（55.0）と比較した時に、必修古文では得点率がほとんど変わらないのに、選択古文では2点近く差がついており、結局この差がそのまま全体偏差値の差となっています。

なぜ必修古文で差がついていないのに、選択古文で大きく差がついているかという、おそらく必修古文は文法問題がらみの問題があり、その点に関しては授業や追試等で手厚くフォローしたので、他校と遜色のない力がついてきたのだと思います。逆に選択古文で大きく差がついているのは、普段の問題演習の量が足りず、スピードを持って、本文を読解し、設問を解く力が十分につけていないために設問にたどり着けなかったからだと思います。夏休みに講習や課題で模試の過去問演習を行ってきましたが、今回の進研模試の結果はそのことの重要性を改めて意識させてくれるものだと思います。

次の11月の模試は道内の主要な進学校がすべて古文、漢文を選択してくるはずですし、これからのみなさんの国語の力の定着力や安定性を見る上で特に大切な模試になります。国語科ではこの模試に向けて、漢文の本格的な知識の取得と今回足りなかった問題読解演習を強く意識して取り組ませたいと考えています。また、偏差値58以上の高校（札幌旭丘、札幌開成高校等）との比較をすると、全分野で点数が下回っているの、今後はこれらの高校に近づけるように審査、追試や平常講習や週末課題を活用し、国語の学力の伸長を図りたいと考えています。

英語

設問ごとに今後伸ばすために必要な対策を記載していく。参照して実行（学習）あるのみ。〔数字は進研模試の問題番号を表す〕

1. リスニング 得点率 48.3%《全国平均を数ポイント上回っている》
リスニングは授業の中ではわずかの時間しか取っていない状況である。伸ばしていくために家庭学習で聴くトレーニングが必要だ。家で集中して聴く時間を確保すること。集中して行うトレーニング時間の確保の積み重ねがリスニング力を高める。

3. 発音・アクセント 得点率 42.5%《ほぼ全国平均と同じである》
入試でよく出るものが出題されている。カタカナ語で日常生活でよく使われているものは狙われやすい。復習して覚えていこう。正しく音読して習得することが大切。

4. 文法・語法 得点率 48.0%《ほぼ全国平均と同じである》
文法や語法、熟語など知っているかどうか問われるものが出題されている。「ビジョングエスト総合英語」を活用して、反復して頭に入れよう。参考書の説明文を読んで理解に苦しむところは先生や友人に助けを求めること。

5. 長文読解 得点率 41.3%《全国平均を数ポイント上回っている》

6. 長文読解 得点率 26.4%《ほぼ全国平均と同じである》
長文読解で求められる力は展開のわかりづらい文章を想像しながら読む力、抽象度の高いものを自分の知識・経験と照らし合わせて辛抱強く読む力。あきらめないこと。英語力の前に背景知識があるかどうか問われる。

長文読解力を上げるために

- ①単語力をつけること
- ②量を読むこと
- ③教科書など意味がわかったものを再度繰り返して読むこと。
- ④他教科の勉強や新聞やニュース、日常生活での様々なことにアンテナを立ててキャッチして背景知識を蓄えておくこと。

自分のできることをコツコツと。長文読解力アップのコツはコツコツ継続だ！

7. 表現力 得点率 41.5%《全国平均を数ポイント上回っている》
文法、語法、熟語の定着が試される問題が多い。問題文（日本語）を見て、どの構文を使うかが思い浮かぶかが鍵だ。たくさん覚えて蓄えておこう。

英語振り返りのまとめ
基礎力の構築が大切。そのために繰り返し勉強して頭に残していくこと。とにかく授業を大切に、復習して積み重ねていこう。

最後に

A man is not finished when he is defeated.
A man is finished when he quits.

人は負けたら終わりなのではない。やめたら終わりなのだ。